プレスリリース　龍ケ崎市

情報提供日：　令和7年2月10日

一般会計予算 314億9，200万円（前年度比6億9，600万円・2.3%増）

令和7年度龍ケ崎市予算（案）を発表しました（2/10）

龍ケ崎市では、本日、令和7年2月10日（月）、予算発表記者会見を開催し、令和7年度龍ケ崎市予算（案）を公表しましたので、お知らせします。

【令和7年度予算のポイント】

〇人事院勧告による給与改定や物価高騰の影響に加え、北竜台学園の建設工事の本格化などで予算規模は拡大。

一般会計予算：314億9，200万円（前年度比　6億9,600万円・2.3%増）

※一般会計・特別会計予算総額：471億9,130万円（前年度比6億7,780万円・1.5%増）

※下水道事業会計：35億3,535万円（前年度比2億6,364万円・6.9%減）

【令和7年度の主な事業】

〇高校生探究活動支援事業（25万円）【企画課】 新規

市内4つの高校が取り組む探究テーマを深める活動や自主的なまちづくり活動に対する補助を開始

〇小児医療オンライン相談事業（333万円）【医療対策課】 新規

小児医療オンライン相談サービスの本格稼働。0～15歳までのお子さんの相談に対応

〇スポーツクライミングのまち龍ケ崎推進事業（4,007万円）【スポーツ推進課】 新規

トップクライマーが身近に存在するという、龍ケ崎ならではの恵まれた環境を活用し、「スポーツクライミングのまち龍ケ崎」を推進
（大規模大会の開催、官民連携によるプロモーション展開や市民向け体験会の実施等）

〇気象防災アドバイザー連携強化事業（224万円）【防災安全課】 拡充

気象状況把握システムの導入により、リアルタイムに情報を把握し、「気象防災アドバイザー」の気象予報士との連携を強化

〇北竜台学園施設整備事業（25億9,299万円）※継続費総額45億1,113万円 【教育総務課】

市内初となる施設一体型小中一貫校を整備し、義務教育9年間にわたり系統的な学びを推進

■　龍ケ崎市長　萩原勇コメント

市長就任以来、「住みたい」「住み続けたい」まちづくりに向け、本市の最上位計画である「龍ケ崎みらい創造ビジョン for2030」のリーディングプロジェクトに、予算を重点的に配分してきました。

3月には、リニューアルされた龍ケ崎市森林公園がグランドオープンを迎え、4月には、保健福祉棟と多世代交流センター「RINK」もオープンします。

令和７年度は、これまでの成果や今後の在り方を客観的に評価しながら、未来に向けた歩みを進める年と位置付け、龍ケ崎が元気になるさまざまな事業を積極的に進め、活力のあるまちとなるよう、市民の皆さんと一丸となって、創り上げてまいります。

■発表日時	令和7年2月10日（月）午前11時　発表 （上記日時に開催した予算発表記者会見で配布した資料をお送りしています）
■添付資料	記者発表資料／市長記者発表要旨／令和7年度龍ケ崎市予算の概要

担当課	龍ケ崎市　総務部　財政課　財政グループ 担当者：富塚（とみつか）・関川（せきかわ）　連絡先：0297-60-1517（直通）

令和7年度は、「龍ケ崎みらい創造ビジョンfor2030」に位置付ける事業を更に進めるとともに、未来に向けて、これまでの成果や今後の在り方を客観的に評価・見直し

一般会計予算は314億9,200万円、前年度比6億9,600万円（2.3%）増
物価高騰の影響、北竜台学園整備の本格化で予算規模が拡大

2. 令和7年度予算のポイント

会計別予算の状況		令和7年度	令和6年度	比　較	増減率
一　般　会　計		314億9,200万円	307億9,600万円	6億9,600万円	2.3%
特別会計	国民健康保険事業	68億6,700万円	71億7,400万円	△3億700万円	△4.3%
	介護保険事業	64億8,900万円	64億800万円	8,100万円	1.3%
	児童発達支援事業	1億2,930万円	1億250万円	2,680万円	26.1%
	後期高齢者医療事業	22億1,400万円	20億3,300万円	1億8,100万円	8.9%
	特別会計合計	156億9,930万円	157億1,750万円	△1,820万円	△0.1%
総　計		471億9,130万円	465億1,350万円	6億7,780万円	1.5%
下水道事業会計		35億3,535万円	37億9,899万円	△2億6,364万円	△6.9%

令和7年度の龍ケ崎市一般会計予算は、歳入では、基幹収入である市税は、令和6年度の実績や賃金上昇を背景に、個人住民税所得割の増など、市税全体で9億1,047万円の大幅な増収を見込んでいる一方で、地方特例交付金は、定額減税の終了により、3億3,391万円の減となっています。地方交付税については、令和6年度算定を基準に地方財政対策等を考慮し、前年度と同程度を確保しています。

歳出は、人事院勧告を反映した給与改定の影響により人件費が大幅に増加するほか、児童手当の拡充などによる扶助費の伸び、賃金上昇や物価高騰による物件費の増などにより、経常経費が増加しています。普通建設事業は、北竜台学園施設整備事業や新長戸コミュニティセンター建設事業が大きなシェアを占めています。

収支ギャップは、令和6年度と同額の6億円と高止まりしています。これを、財政調整基金の繰入で対応しますが、予算執行における収支改善が課題となります。

令和7年度は、全ての団塊の世代が75歳以上となる、いわゆる「2025年問題」の年を迎えます。今後、介護保険事業特別会計及び後期高齢者医療事業特別会計の急速な規模拡大と、これに伴う、一般会計からの繰入金の急増が懸念されるところです。

また、児童発達支援事業特別会計では、中核的な支援機関である児童発達支援センターとして「こども発達センターつぼみ園」の機能の充実を図っています。

新規 拡充

リーディングプロジェクト Leading 未来創造 Project 未来創造プロジェクト～子どもの笑顔が続くまちを創る～

新規 さんさん館休日運営の充実（土曜日午前中の開館を毎週に拡充）	－万円
拡充 リフレッシュ保育の充実（さんさん館に加え、駅前こどもステーションでもサービスを開始）	2,619万円
拡充 たつのこワクワクワーク事業（こども向け職場体験イベントの種類を拡充）	472万円
新規 高校生の探究活動を支援（探究テーマを深める活動や自主的なまちづくり活動に対する補助）	25万円
拡充 こども発達センターつぼみ園の相談・支援体制を充実（作業療法士等を増員）	970万円
新規 小児医療オンライン相談サービスの開始（0歳～15歳までのお子さんの相談に対応）	333万円
新規 STEAM教育の推進（プログラミングやAIを活用した教科横断的な学びを実施）	63万円
北竜台学園施設整備事業　※3か年継続事業（総額45億1,113万円）R9年4月開校	25億9,299万円
新規 中学校3年生給食費の無償化（保護者の経済的負担を軽減し、新生活への準備を後押し）	3,037万円
関連 小中学校全学年を対象に食材費高騰分を市で負担（6,539万円）、第3子以降の給食費無償化を継続（1,076万円）	

リーディングプロジェクト Leading 魅力創造 Project 魅力創造プロジェクト～もっと魅力が感じられるまちを創る～

新規 スポーツクライミングのまち龍ケ崎の推進（ﾄｯﾌﾟｸﾗｲﾏｰが身近に存在する環境を活用したまちづくり）	4,007万円
プロスポーツチームとの連携（イベントや観戦ツアー開催・応援グッズを配布）	184万円
新規 地域ブランディングの推進（「龍」をシンボルとしたブランディング戦略を推進）	450万円

リーディングプロジェクト Leading 幸せ創造 Project 幸せ創造プロジェクト～日常を豊かに、快適に過ごせるまちを創る～

新規 保健福祉棟に多世代交流センター「RINK」をオープン（官民連携で多様なコンテンツを提供）	2,593万円
新規 AIオンデマンド交通の本格運行（コミュニティバス枝線の代替手段手段として東部地域で運行）	3,864万円
新規 移動スーパー等買い物支援の充実（移動販売等事業者に移動販売に係る費用の一部を補助）	200万円

防災・減災対策の推進

新規 避難所衛生環境改善事業（トイレトラック、水循環型シャワー・テントセットを配備）（R6前倒し事業）	8,240万円
新規 災害対応ドローンの配備（災害発生時の状況把握・市民への情報発信を迅速化）	868万円
拡充 気象防災アドバイザー連携強化事業（気象情報把握システム導入でリアルタイムに情報を把握）	224万円
新規 水防災意識向上推進事業（電柱等への想定浸水深表示板設置・県管理河川ハザードマップ作成）	510万円

その他の主な事業

新規 がん患者の療養生活をサポート（ウィッグ・乳房補整具等の購入及びレンタル費用の一部を助成）	54万円
プレミアム付商品券の発行（プレミアム率20％）	5,000万円
新規 病害虫防除対策事業（農業生産者へジャンボタニシ防除費用の一部を補助）	135万円

公共施設再編成の取組・インフラの新設等

新長戸コミュニティセンター建設事業　※2か年継続事業（総額4億7,251万円）	3億5,166万円
市道第1-380号線（佐貫3号線）整備事業（R6前倒し2億5，018万円）	3億3,022万円

令和７年２月１０日発表（記者発表）

市長記者発表要旨

私が市長に就任して、早くも 4 年目となりました。この間、新型コロナウイルスのまん延による社会経済活動の停止と 5 類移行後の急速な回復、ロシアのウクライナ侵攻に端を発するエネルギー価格やそれに続く様々な物価の高騰などに対する市民への支援、また、記録的短時間大雨や勢力を増す台風といった自然災害への対応など、非日常的な事態が日常化する中、安全・安心な市民生活の確保に努めてまいりました。

このような中でも、思いを込めて本市の最上位計画である「龍ケ崎みらい創造ビジョン for2030」を策定し、そのリーディングプロジェクトに位置付けた主要事業に、予算を重点的、優先的に配分してきたところです。

これらの事業のうち、民間活力や資金を活用してリニューアルを進めている森林公園は、いよいよ 3 月にグランドオープンを迎えます。また、4 月には保健福祉棟 3 階に多世代交流センター「RINK」がオープンします。加えて、旧城南中学校跡地への複合商業施設開業に向けての調整や、長山中学校区に新設予定の義務教育学校「北竜台学園」の開校準備が進むなど、様々な成果が実を結びつつあります。

そこで、令和 7 年度は、「龍ケ崎みらい創造ビジョン for2030」に基づき取り組んだ、これまでの成果や今後の在り方を客観的に評価しながら、未来に向けて歩みを進める年と位置付け、これまで以上に、本市のあるべき姿の実現を積極的に推進していくこととしました。

令和 7 年度の予算規模ですが、前年度と比較して、一般会計の予算額は 6 億 9,600 万円、2.3%増の 314 億 9,200 万円となりました。

特別会計の合計額は 1,820 万円、0.1%減の 156 億 9,930 万円となりました。ただし、令和 7 年度は全ての団塊の世代が 75 歳以上となる、いわゆる「2025 年問題」の年です。今後、介護保険事業特別会計及び後期高齢者医療事業特別会計の急速な規模拡大と、これに伴う一般会計からの繰入金の急増が懸念されるところです。

下水道事業会計は 2 億 6,364 万円、6.9%減の 35 億 3,535 万円となっています。

令和 7 年度予算の特徴です。

歳入のうち、基幹収入である市税は、令和 6 年度の実績や賃金の上昇を背景として個人住民税所得割などを中心に、9 億円超の増収を見込みました。一方、定額減税の終了により、地方特例交付金は 3 億円超の減となっています。地方交付税については、令和 6 年度算定を基準に地方財政対策等を考慮し、前年度と同程度を確保しています。

歳出は、人事院勧告を反映した給与改定の影響により人件費が大幅に増加したほか、児童手当の拡充などによる扶助費の伸び、賃金上昇や物価高騰による物件費の増などにより、経常経費が増加しました。普通建設事業は、北竜台学園施設整備事業や新長戸コミュニティセンター建設事業が大きなシェアを占めています。

収支ギャップは、令和 6 年度と同額の 6 億円と高止まりしています。これを財政調整基金の繰入で対応しましたが、予算執行における収支改善が課題となるところです。

次に、令和 7 年度当初予算に計上した主な事業についてです。

はじめに、「龍ケ崎みらい創造ビジョン for2030」の 3 つのリーディングプロジェクトに関連する取り組みについてご説明します。

まず、子どもの笑顔が続くまちを創るための「未来創造プロジェクト」です。

「さんさん館子育て支援センター」は、土曜日午前中の開館を、月 1 回から毎週に拡充

します。追加の予算が発生しないよう、人員配置で対応する予定です。
　また、一時預かりサービスである「リフレッシュ保育」は、さんさん館に加えて「駅前こどもステーション」でもサービスを開始いたします。
　さらに、人気のこども向け職業体験イベント「たつのこワクワクワーク」の体験メニューを増やしたり、高校生が取り組む「総合的な探究の時間」の授業を通じて設定した探究テーマを深める活動や、自主的なまちづくり活動に対する補助を開始するなど、体験や地域と関わりを持つ場を大切にし、未来を担うこどもたちが龍ケ崎を愛し、大切にできる基盤を整えます。
　「こども発達センターつぼみ園」は、令和 6 年 4 月に児童福祉法に基づく、「児童発達支援センター」へ移行し、関連機関との連携づくりや援助、助言などの地域支援を行う、地域における中核的な支援機関として新たなスタートを切ったところです。地域支援に対するニーズの高まりに応え、新規事業である保育所等訪問支援及び相談事業の充実を図るため、作業療法士などを増員します。
　健康分野では、すでに 1 月 20 日よりトライアルが開始されております、「小児医療オンライン相談サービス」が本稼働します。0～15 歳までのお子さんの相談に対応しています。
　教育分野では、プログラミングや AI を活用した教科横断的な学びを実施する、STEAM(ｽﾃｨｰﾑ)教育を推進していきます。
　先日名称が決定した、本市初の義務教育学校「北竜台学園」は、令和 6 年度から令和 8 年度まで総額 45 億 1,113 万円の継続費を設定し、令和 9 年度の開校に向け、現在、建設工事を進めております。
　さらに、重点支援地方交付金を活用して、中学校 3 年生の給食費を無償化し、保護者の経済的負担を軽減するとともに、新生活への準備を後押しします。また、小中学校全学年を対象に、食材費の高騰により生じた給食費との差額分について市で負担をしています。このほか、子育て世代の経済的負担を軽減するため、第３子以降の給食費無償化を継続します。中学校 3 年生の給食費無償化への国の重点支援地方交付金の活用は、令和 7 年度のみの措置となる見込みです。

　続いて、もっと魅力が感じられるまちを創るための「魅力創造プロジェクト」です。
　トップクライマーが身近に存在するという龍ケ崎ならではの恵まれた環境を活用し、「スポーツクライミングのまち龍ケ崎」を推進します。キックオフイベントとして 3 月 15、16 日に開催されるユースクライミング大会に続いて、さらなる大規模大会の開催を目指すほか、市民向けの体験会や学校との連携の検討など、幅広い分野で施策展開を図り、まちの魅力を高めてまいります。
　さらに、鹿島アントラーズ、茨城ロボッツ、茨城アストロプラネッツといったプロスポーツチームと連携し、誰もがスポーツを楽しめる環境づくりや、スポーツを通じた地域のにぎわいづくりを進めていきます。
　また、本市が持つ潜在能力を引き出し、ブランディング力を高め、ひいては地域活性化や地域経済の好循環につなげるため、「龍」をシンボルとしたブランディング戦略を推進します。

　続いて、日常を豊かに、快適に過ごせるまちを創るための「幸せ創造プロジェクト」です。
　まず、4 月 1 日に、健康づくりや子育て支援の拠点となる「保健福祉棟」がオープンします。この施設には、1 階に健康・子育て・高齢者福祉に関する窓口、2 階には主に健診会場、3 階には多世代交流センター「RINK」を開設します。「RINK」は、民間事業者が運営し、官民連携で多様なコンテンツを提供する予定であり、誰でも気軽に使用でき、市民に親しま

れる居心地の良い空間を提供します。
　私の公約の柱の一つでありましたAIオンデマンド交通も、実証実験を経て、いよいよ市東部地域において本格運行となります。より便利で快適な移動手段が提供できるものと考えています。
　移動スーパーによる買い物支援は、イトーヨーカドー竜ヶ崎店閉店に伴い停止している移動スーパーと同様のサービスを早期に提供できるよう、出店を希望する事業者へ移動販売に係る経費の一部補助を予定しています。

　次に、防災・減災対策の推進です。
　令和5年の台風第2号の影響による牛久沼の越水、令和6年1月1日に発生した能登半島地震など、自然災害のリスクは顕在化しており、備えに対する重要性を再認識しました。このため、引き続き、災害対応を強く意識し、予算に反映させています。
　まず、避難所の衛生環境改善として、トイレトラック1台と、水循環型シャワーテントセット8基を配備いたします。平時には各種イベントや防災訓練などに活用するとともに、「みんな元気になるトイレ」プロジェクトに参加し、災害派遣トイレネットワークの一員として、被災時に他地域から支援を受けるほか、他地域への災害派遣などにも対応する予定です。なお、これは、国の補正予算を活用し、13ヶ月予算となる、令和6年度の前倒し事業となります。
　また、災害発生時の状況把握、市民への情報発信を迅速化するため、災害対応ドローンを大小4機配備します。平時は公共施設や橋の点検、広報紙の写真撮影などに積極的に活用することで、操縦できる職員の育成も図っていく予定です。
　本市は、全国的にもかなり早い段階から、「気象防災アドバイザー」として気象予報士と連携し、台風接近時などの情報収集や分析を行ってきたところですが、リアルタイムに情報を把握できるよう、気象状況把握システムを導入し、連携をさらに強化していきます。
　また、電柱等に想定浸水表示板を設置したり、県が管理する河川のハザードマップを作成することで、昭和56年の小貝川決壊から40年が経過し、記録的短時間大雨などにより近年また高まりつつある水防意識の更なる向上を図ります。

　そのほか、近年、需要が高まっている事業などに対応する予算を新たに計上しています。
　がん患者の療養生活をサポートするため、ウィッグや乳房補整具などの購入やレンタルの費用の助成を開始します。
　また、食料品価格等の物価高騰の影響を受けている市民の皆さん、事業者の皆さんへの支援として、プレミアム付商品券事業を実施します。プレミアム率20%付商品券を発行し消費の喚起と下支えをすることで、地域経済の活性化につなげてまいります。
　このほか、近年、耕作地における水稲の食害が発生し問題となっているジャンボタニシを防除するための補助を開始しています。

　公共施設の再編成やインフラの新設なども、進めてまいります。
　新長戸コミュニティセンター建設事業は、令和6年度と7年度の2か年で総額4億7,251万円の継続費を設定しています。
　　また、市道第1－380号線、いわゆる佐貫3号線整備事業は、国の補正予算に連動し、令和6年度予算と一体的に行うこととしています。

　ご理解、ご協力のほど、よろしくお願いいたします。